

四、木地師アーカイブ・プロジェクトを終えて

日本各地の森林地帯に木地師の技術が入ったことで、人々が必要としてきた器を供給する時代が長く続きました。全国各地で出土する木製の膳椀類、皿や盆の類、また絵巻物等絵画資料による記録をたどると、木製容器が食器の主流を占めていた時代があったことが次第に明らかになってきました。

中世において、木器と漆器を出土する遺跡は北海道から宮崎県に至り、その数は百十一箇所をかぞえます。神奈川県鎌倉市内の遺跡からはスタンプを使用した漆器も出土しており、漆器量産化の形跡がみられました（一九八五年現在）。このような事例から木地師と塗師、漆かき職人などの存在は、古い時代から木製容器の時代を築いてきたという印象を強くします。

木地師の仕事を再考するという作業は、日本における食文化や儀礼文化を再考することにつながっていくと考えています。それはまた日本人が歩んできた足跡を記録し、残すことに結びつくと考えています。鉄や土、石などを扱う職人と同様、木を扱う木地師も日本の諸産業や生活文化の中樞を担ってきた人々であったのでした。

しかも木地師の場合は氏子駄帳等の文字資料により、その移住の歴史がわかる唯一の職人集団といわれています。今後の研究がさらに期待できる分野であると考えています。

さて、このプロジェクトを支えたのは市民ボランティアの皆さんでした。六年間にわたり膨大な資料の記録と整理を根気よく続けました。そして資料整理作業が進むにつれ参加者が固定されるようになりました。自らの意思で主体的に作業を継続してきたことで、モノを深く見詰め、考える体験をされたという印象を強くしています。その一事例として参加した方の感想を記してみたいと思います。（ID二四茶筒を参照一八頁）。

「外蓋の内径が容器の口とぴたりと合う。経年劣化の歪みの少ない木を材料としたのでしょうか。よく乾燥した木を加工したのだろうと思

ます。」

「外蓋の形について、天辺を容器の肩の丸味に合わせてふくらせてあるのがよくよかな感じがしてとても良く、指がかかりやすくするために反りをもって絞った筒形の蓋であるのが、いわゆる寸胴形の茶筒とは一線を画した上品な感じがします」（後略）

また次のような意見もありました。

「木地製品は昔のものではなく、その技術をいかした製品が私たちの身近にいかされていることを知るきっかけになりました」

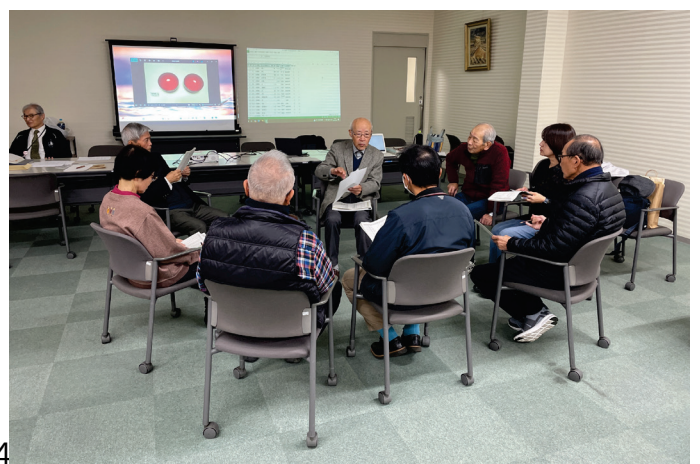
「アーカイブ活動に参加することは、身近なものの履歴、先人の知恵、技術に思いを馳せ知ることのできる楽しい時間でした」

生産の場としての山に人々の関心が薄れている今日、山は健全な姿を失っているように見えます。そのような現代社会において、このプロジェクトに参加された皆さんは、山深い森で暮らしてきた木地師の生活に、また磨き抜かれた技術に興味を抱いていたのではないのでしょうか。そして、木地物を製作してきた人々の森や樹木に対する想いを具体的に知りたいと思っていたのではないのでしょうか。

木地師は森や樹木を心の底から敬っていたと思います。森に入って原木を伐採するとき、その木の前で祈りを捧げて許しを請う。そして伐採する前に必ず柎見をしました。立木の一部をばき取り、斧で割って柎目が通っていることを見定めて素性のいい木だけを伐採しました。伐採後は切り株の中央に枝の一部を立てて、その樹木が再生することを願ったのです。木地師は森と樹木に敬意を払い、森を活用してきた達人であり、いかえれば山に抱かれ、森に生かされてきた人々でした。

最後になりましたが、木地師アーカイブ・プロジェクトに参加された皆さんの御礼を申し上げます。

(一) 作業風景



(二) 木地師アーカイブ・プロジェクト参加者一覧

大橋通孝	大藤寛子	小椋章嗣
加藤博之 ○	川原崎良雄 ○	川畑一朗 ○
国司まゆ	櫻萌々乃	澤井進
澤田順子	杉谷久美子	鈴木艶子
高田清 ●○	中島善一郎 ○	西山由美子
藤澤加奈子	森滋尋 ○	山本久司 ○
山本善夫	山本怜	横田雅美 ○
渡邊嘉久 ○	計 22 名	

<凡例>

○：作図者（当資料に掲載されている図面に限る）

●：写真撮影者

(三) 参考文献

- ・西田峯吉『こけし風土記』未来社 1961
- ・沢口吾一『日本漆工の研究』美術出版社 1966
- ・半田市太郎『近世漆器工業の研究』吉川弘文館 1970
- ・菅野新一ほか『こけしのふるさと』未来社 1972
- ・星 勝晴『湯本山郷史上巻』大盛堂印刷所 1973
- ・宮本馨太郎『めし・みそ・はし・わん』岩崎美術者 1973
- ・須藤 護「奥会津の木地師」『民具と生活』日本生活学会 1976
- ・庄司吉之助『会津風土記・風俗帳』巻 1, 巻 2 歴史春秋社 1979
- ・須藤 護「暮らしの中の木器—日本人の生活と文化5」ぎょうせい 1982
- ・『中世遺跡出土の漆器』第 5 回中世遺跡研究集会資料集 1985
- ・天栄村村史編纂委員会『天栄村史』1990
- ・寺島良安『和漢三才図絵 5』東洋文庫 1991
- ・柴田長吉郎『伝統こけし論説集』日本木地師学会 2007
- ・『新編会津風土記』全 5 巻 歴史春秋社 1999～2003
- ・熊倉功夫『うまし うるわし 日本の食事』MIHO MUSEUM 2024

東近江市木地師アーカイブ・プロジェクト資料紹介

発行日：令和7年3月31日

著作・編集：須藤 護

発行者：木地師のふるさと実行委員会

木地師アーカイブ・プロジェクト

事務局：東近江市企画部企画課内

〒527-8527

滋賀県東近江市八日市緑町10番5号

TEL:0748-24-5610

IP:050-5801-5610